

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

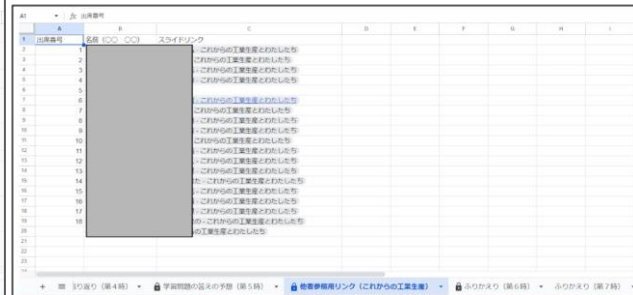
久喜市立三箇小学校

【取組内容①】 5年生社会科における複線型の学習

単元の導入で学習問題を設定した後に、スライドの白紙共有をし、1単位時間の中での「調べる」や「まとめる」段階において、他者参照（必要なときに必要な相手と協働）を積極的に行う「複線型の学び」を行った。※下記の赤字部分

単元の「調べる」過程での基本的な流れ

- 1 学習課題をつかむ。（5分）
- 2 教科書やインターネットを使い、学習課題について調べたことを白紙共有されたスライドに整理する。（25分）
- 3 全体に発表する。（5分）
※意図的指名
- 4 ふりかえりシートに「まとめ」と「ふりかえり」を入力し発表する。（10分）



児童の変容

○知識技能のワークテスト正答率が一斉型の授業に比べ6%上がった。（正答率92.1%）
→調べる時間の確保と、他者参照（途中参照）により、インプットとアウトプットを繰り返し行った結果と推察している。

○ふりかえりの記述内容が回を重ねるごとに高まっていった。
→他者参照（途中参照）によって、他者の考えの良いところを見つけ、自分自身の学びに生かそうとした結果だと考える。

1単位時間毎のふりかえりシート



他者参照用リンク（スライド）

児童が作成したスライド

※この児童は1単位時間あたり2枚程度のスライドにまとめた。